２０１１年度　部落問題学習研究委員会　まとめ

Ⅰ．はじめに

一昨年度、本研究委員会は、「高校の部落問題学習は、歴史学習ではなく、現状認識から出発する必要がある」と提起した。本年度も「いかに部落問題学習を行うべきか」という大きなテーマをひきついで、最終的には「部落問題学習の指導案づくり」を目標にして、「部落問題学習の切り口とテーマを考える」という主題をもって研修と研究をすすめてきた。

Ⅱ．とりくみの経過

第１回　５月２７日　橿原市中央公民館
「部落問題学習の切り口とテーマを考える」
研究協議：昨年度提案した『部落差別をどう教えるか？』（高人教研究実践レポート）の再確認のための読み合わせ。

第２回　６月２４日　橿原市中央公民館
「中学校の歴史教科書の記述の中の部落問題」と「歴史学習をしない高校での部落問題ホームルーム指導案」。
研究協議：中学校の各歴史教科書の検討。および、委員の所属する各学校でのホームルーム指導案の検討。

第３回　１０月７日　鼓阪人権文化センター
「東之阪地区を知る」
研修：「ハンセン病と部落問題について」（講演とフィールドワーク）
　講師：部落解放同盟東之阪支部長　松田好則さん（奈良市リサイクル課長）
研究協議：前回に引き続き、委員の所属する各学校でのホームルーム指導案の検討。

第４回　１０月２８日　橿原市中央公民館分館
「高校で部落問題をどう教えるか」
研究協議：現状に切り込む部落問題学習のホームルーム指導案の検討。
　第一学年：①結婚差別の現状から
　　②就職差別（近畿統一用紙のとりくみ）
　第二学年：①体験を語る（「うち、○○に引っ越してきてんけど」）
　　②人権作文を通じて（「話してくれてありがとう」）
　第三学年：①土地調査差別事件をめぐって
　　②職場や地域社会で
　実践事例：①狭山事件をめぐって
　　②フィールドワークにとりくむ

第５回　１月１３日　橿原公苑本館
「総括案および研究レポートの検討」
研究協議：前回に引き続き、各指導案の検討。

Ⅲ．研修・協議のまとめと今後の課題

１．「部落問題の現状認識を、どのように授業やホームルームに導入するか」ということに研究協議を絞りこみ、そのための指導案例を作成し、検討した。今年度は６本の「歴史学習をおこなわない、高校での部落問題学習指導案」を提示した。今後、各校・各位で検討していただき、各校のとりくみに役立てることができれば幸甚である。
　なお、県内で実際に使用されている２本の指導案も、補足として付け加えた。

２．これは、各現場での部落問題学習が、著しい場合には「古代・中世のケガレ意識」から、一般的には近世の身分制から、さらには「解放令」と水平社運動といったように、歴史学習を積み重ねたあとで、突然「近畿統一用紙」が現れる、ということへの疑問があったからである。
　「部落差別をなくそう」という熱意と、「もう、そんな時代じゃないんじゃないか」という、語りかける側の姿勢の醸成が、今、あらためて必要とされているのではないか。

３．「現状認識からはじめる部落問題学習」を通じて部落差別がなくなれば幸いであるが、その時に研究委員会で協議しておく必要がある案件として、天皇制の問題がある。「部落問題と表裏の関係にある」と考えるならば、来年度以降、研究対象の一つとするべきである。